三菱電機 (株)

A シリーズ CPU 直結ドライバ

1 **システム構成** 3
2 **接続機器の選択** 7
3 **通信設定例** 8
4 **設定項目** 12
5 **結線図** 17
6 **使用可能デバイス** 22
7 **デバイスコードとアドレスコード** 25
8 **エラーメッセージ** 26

はじめに

本書は表示器と接続機器（対象 PLC）を接続する方法について説明します。

本書では接続方法を以下の順に説明します。。

1	**システム構成** **接続できる接続機器の種類、通信方式について示します。**	☞「1 システム構成」（3 ページ）
2	**接続機器の選択** **接続する接続機器の機種（シリーズ）と接続方法を選択します。**	☞「2 接続機器の選択」（7 ページ）
3	**通信設定例** **表示器と接続機器間で通信するための設定例を示します。**	☞「3 通信設定例」（8 ページ）
4	**設定項目** **表示器側の通信設定項目を説明します。** **表示器の通信設定は GP-Pro EX、またはオフラインモードで設定します。**	☞「4 設定項目」（12 ページ）
5	**結線図** **表示器と接続機器を接続するケーブルやアダプタについて示します。**	☞「5 結線図」（17 ページ）

運転

1 システム構成

三菱電機（株）製接続機器と表示器を接続する場合のシステム構成を示します。

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例	結線図
MELSEC AnA シリーズ	A2A A3A A2U A2US A2U-S1 A2US-S1 A2USH-S1 A3U A4U	CPU 直結	RS232C	設定例 1 （8 ページ）	結線図 1 （17 ページ）
			RS422（4 線式）	設定例 2 （10 ページ）	結線図 2 （18 ページ）
	A2A A3A A2US A2U-S1 A2USH-S1 A4U	(株) デジタル製 2 ポートアダプタⅡ (型式：GP070-MD11)	RS422（4 線式）	設定例 3 （11 ページ）	結線図 3 （19 ページ）

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例	結線図
MELSEC AnN シリーズ	A2CCPU24 A2CJ-S3 A3H A0J2H A1N A2N A3N A1S A1SH A2SH A1SJ	CPU 直結	RS232C	設定例 1 （8 ページ）	結線図 1 （17 ページ）
			RS422（4 線式）	設定例 2 （10 ページ）	結線図 2 （18 ページ）
	A2CJ-S3 A3H A0J2H A2N A3N A2SH A1SH A1S A1SJ	(株) デジタル製 2 ポートアダプタ II (型式：GP070-MD11)	RS422（4 線式）	設定例 3 （11 ページ）	結線図 3 （19 ページ）
MELSEC Q シリーズ A モード	Q02CPU-A Q02HCPU-A Q06HCPU-A	CPU 直結	RS232C	設定例 1 （8 ページ）	結線図 4 （21 ページ）

■ IPC の COM ポートについて

接続機器と IPC を接続する場合、使用できる COM ポートはシリーズと通信方式によって異なります。詳細は IPC のマニュアルを参照してください。

使用可能ポート

シリーズ	使用可能ポート		
	RS-232C	RS-422/485(4 線式)	RS-422/485(2 線式)
PS-2000B	COM1※1、COM2、COM3※1、COM4	-	-
PS-3450A、PS-3451A	COM1、COM2※1※2	COM2※1※2	COM2※1※2
PS-3650A、PS-3651A	COM1※1	-	-
PS-3700A (Pentium®4-M) PS-3710A	COM1※1、COM2※1、COM3※2、COM4	COM3※2	COM3※2
PS-3711A	COM1※1、COM2※2	COM2※2	COM2※2
PL-3000B	COM1※1※2、COM2※1、COM3、COM4	COM1※1※2	COM1※1※2

※1 RI/5V を切替えることができます。IPC の切替えスイッチで切替えてください。

※2 通信方式をディップスイッチで設定する必要があります。使用する通信方式に合わせて、以下のように設定してください。

ディップスイッチの設定：RS-232C

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	OFF※1	予約（常時 OFF）
2	OFF	通信方式：RS-232C
3	OFF	
4	OFF	SD(TXD) の出力モード：常に出力
5	OFF	SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
6	OFF	RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
7	OFF	SDA(TXA) と RDA(RXA) の短絡：しない
8	OFF	SDB(TXB) と RDB(RXB) の短絡：しない
9	OFF	RS(RTS) 自動制御モード：無効
10	OFF	

※1 PS-3450A、PS-3451A を使用する場合のみ設定値を ON にする必要があります。

ディップスイッチの設定：RS-422/485（4 線式）

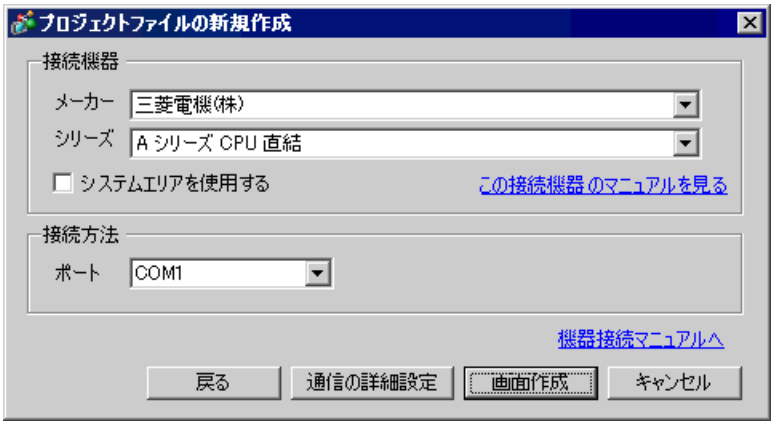
ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	OFF	予約（常時 OFF）
2	ON	通信方式：RS-422/485
3	ON	
4	OFF	SD(TXD) の出力モード：常に出力
5	OFF	SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
6	OFF	RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
7	OFF	SDA(TXA) と RDA(RXA) の短絡：しない
8	OFF	SDB(TXB) と RDB(RXB) の短絡：しない
9	OFF	RS(RTS) 自動制御モード：無効
10	OFF	

ディップスイッチの設定：RS-422/485（2 線式）

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	OFF	予約（常時 OFF）
2	ON	通信方式：RS-422/485
3	ON	
4	OFF	SD(TXD) の出力モード：常に出力
5	OFF	SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
6	OFF	RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
7	ON	SDA(TXA) と RDA(RXA) の短絡：する
8	ON	SDB(TXB) と RDB(RXB) の短絡：する
9	ON	RS(RTS) 自動制御モード：有効
10	ON	

2 接続機器の選択

表示器と接続する接続機器を選択します。



設定項目	設定内容
メーカー	接続する接続機器のメーカーを選択します。「三菱電機（株）」を選択します。
シリーズ	接続する接続機器の機種（シリーズ）と接続方法を選択します。「A シリーズ CPU 直結」を選択します。 「A シリーズ CPU 直結」で接続できる接続機器はシステム構成で確認してください。 ☞**「1 システム構成」（3 ページ）**
システムエリアを使用する	表示器のシステムデータエリアと接続機器のデバイス（メモリ）を同期させる場合にチェックします。同期させた場合、接続機器のラダープログラムで表示器の表示を切り替えたりウィンドウを表示させることができます。 **参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用）」** この設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードでも設定できます。 **参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6[システム設定ウィンドウ] の設定ガイド■ [本体設定] の設定ガイド◆システムエリア設定」** **参照：保守 / トラブル解決ガイド「2.14.1 表示器共通」■ [本体設定] の設定ガイド◆システムエリア設定**
ポート	接続機器と接続する表示器のポートを選択します。

3 通信設定例

（株）デジタルが推奨する表示器と接続機器の通信設定例を示します。

3.1 設定例 1

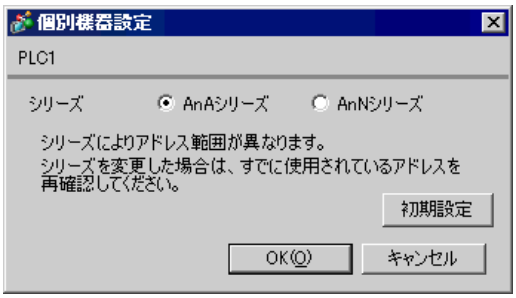
■ GP-Pro EX の設定

◆通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

◆機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機種別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。



MEMO

- シリーズは、ご使用の接続機器にあわせて設定してください。
- Q シリーズ A モードを使用する場合は、[AnA シリーズ] を設定してください。

■ 接続機器の設定

接続機器側の設定はありません。

3.2 設定例 2

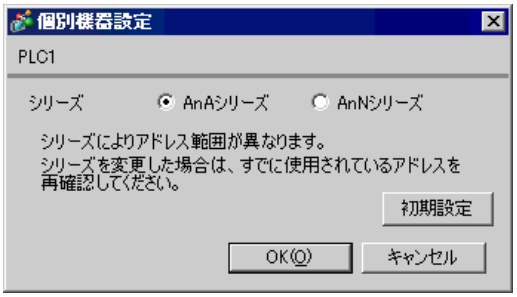
■ GP-Pro EX の設定

◆通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

◆機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機種別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。



MEMO ・ シリーズは、ご使用の接続機器にあわせて設定してください。

■ 接続機器の設定

接続機器側の設定はありません。

3.3 設定例 3

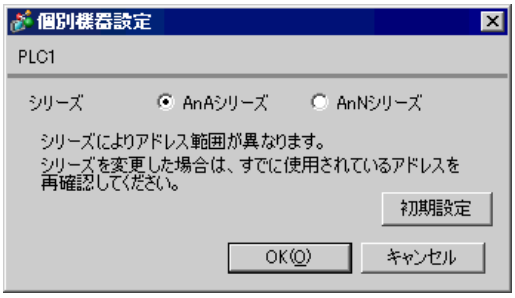
■ GP-Pro EX の設定

◆通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

◆機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機種別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。



MEMO

- シリーズは、ご使用の接続機器にあわせて設定してください。

■ 接続機器の設定

接続機器側の設定はありません。

4 設定項目

表示器の通信設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードで設定します。
各項目の設定は接続機器の設定と一致させる必要があります。
☞「3 通信設定例」(8 ページ)

4.1 GP-Pro EX での設定項目

■ 通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

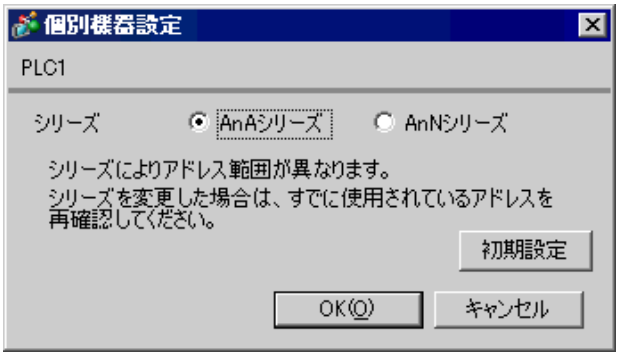
設定項目	設定内容
通信方式	接続機器と通信する通信方式を選択します。
通信速度	接続機器と表示器間の通信速度を選択します。
データ長	データ長を選択します。
パリティ	パリティチェックの方法を選択します。
ストップビット	ストップビット長を選択します。
フロー制御	送受信データのオーバーフローを防ぐために行う通信制御の方式を選択します。
タイムアウト	表示器が接続機器からの応答を待つ時間（s）を「1 ～ 127」で入力します。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0 ～ 255」で入力します。
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間（ms）を「0 ～ 255」で入力します。
アダプタ	アダプタを使用する場合、「直結」「2 ポートアダプタ」から選択します。 2 ポートアダプタ II を使用する場合は「2 ポートアダプタ」を選択します。
RI/VCC	通信方式で RS232C を選択した場合に、9 番ピンの RI/VCC を切り替えます。 IPC と接続する場合は IPC の切替スイッチで RI/5V を切り替える必要があります。詳細は IPC のマニュアルを参照してください。

■ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機種別設定] から設定したい接続機器の （[設定]）をクリックします。



設定項目	設定内容
シリーズ	ドライバのシリーズ名に「AnA シリーズ」「AnN シリーズ」のいずれかを選択します。Q シリーズ A モードを使用する場合は「AnA シリーズ」を選択します。

4.2 オフラインモードでの設定項目

MEMO

- オフラインモードへの入り方や操作方法は保守 / トラブル解決ガイドを参照してください。

参照：保守 / トラブル解決ガイド「2.2 オフラインモードについて」

■ 通信設定

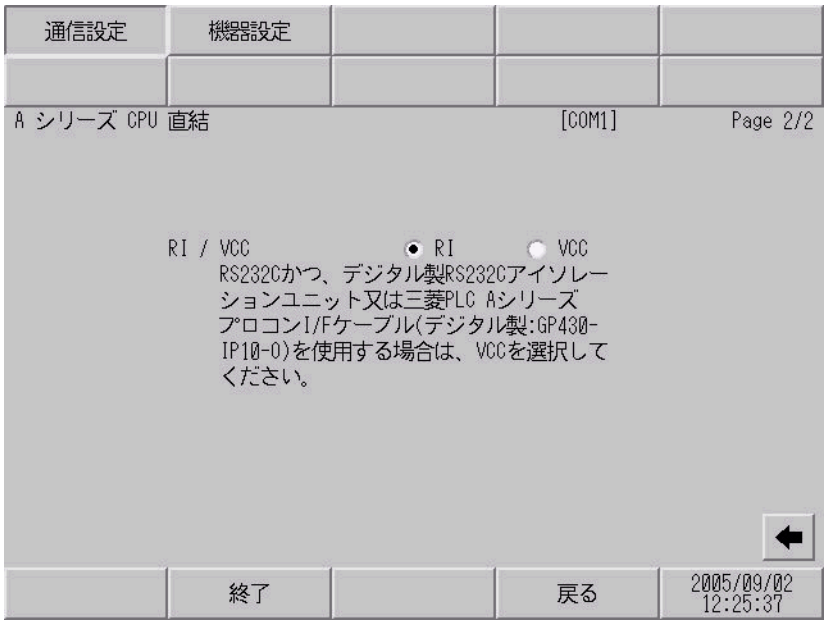
設定画面を表示するには、オフラインモードの [周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチします。

（1/2 ページ）

設定項目	設定内容
通信方式	接続機器と通信する通信方式を選択します。 重 要 通信設定を行う場合、[通信方式] は表示器のシリアルインターフェイスの仕様を確認し、正しく設定してください。 シリアルインターフェイスが対応していない通信方式を選択した場合の動作は保証できません。 シリアルインターフェイスの仕様については表示器のマニュアルを参照してください。
通信速度	接続機器と表示器間の通信速度が表示されます。
データ長	データ長が表示されます。
パリティ	パリティチェックの方法が表示されます。
ストップビット	ストップビット長が表示されます。
フロー制御	送受信データのオーバーフローを防ぐために行う通信制御の方式が表示されます。
タイムアウト	表示器が接続機器からの応答を待つ時間（s）を「1 ～ 127」で入力します。

設定項目	設定内容
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0 ～ 255」で入力します。
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間（ms）を「0 ～ 255」で入力します。
アダプタ	アダプタを使用する場合、「直結」「2 ポートアダプタ」から選択します。 2 ポートアダプタ II を使用する場合は「2 ポートアダプタ」を選択します。

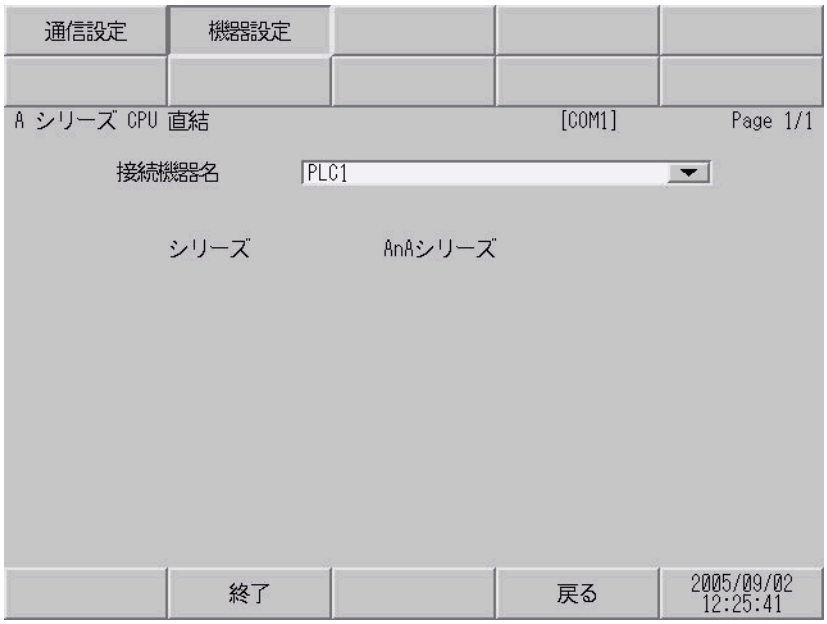
（2/2 ページ）



設定項目	設定内容
RI/VCC	通信方式で RS232C を選択した場合に、9 番ピンの RI/VCC を切り替えます。 IPC と接続する場合は IPC の切替スイッチで RI/5V を切り替える必要があります。詳細は IPC のマニュアルを参照してください。

■ 機器設定

設定画面を表示するには、[周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[機器設定] をタッチします。



設定項目	設定内容
接続機器名	設定する接続機器を選択します。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。（初期値 [PLC1]）
シリーズ	ドライバのシリーズ名「AnA シリーズ」または「AnN シリーズ」が表示されます。 オフラインモードの［機器設定］ではシリーズを変更できません。

5 結線図

以下に示す結線図と三菱電機（株）が推奨する結線図が異なる場合がありますが、本書に示す結線図でも動作上問題ありません。

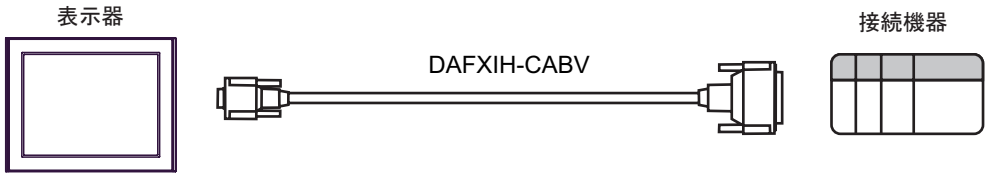
- 接続機器本体の FG 端子は D 種接地を行ってください。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。
- 表示器内部で SG と FG は接続されています。接続機器と SG を接続する場合は短絡ループが形成されないようにシステムを設計してください。
- ノイズなどの影響で通信が安定しない場合はアイソレーションユニットを接続してください。

結線図 1

表示器 （接続ポート）	ケーブル	備考
GP（COM1） IPC※1 PC/AT	ダイヤトレンド（株）製 三菱 FA 機器用インターフェース内蔵ケーブル DAFXIH-CABV（3m）	15m までオーダー製作可能

※1 RS-232C で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ ■ IPC の COM ポートについて （5 ページ）



結線図 2

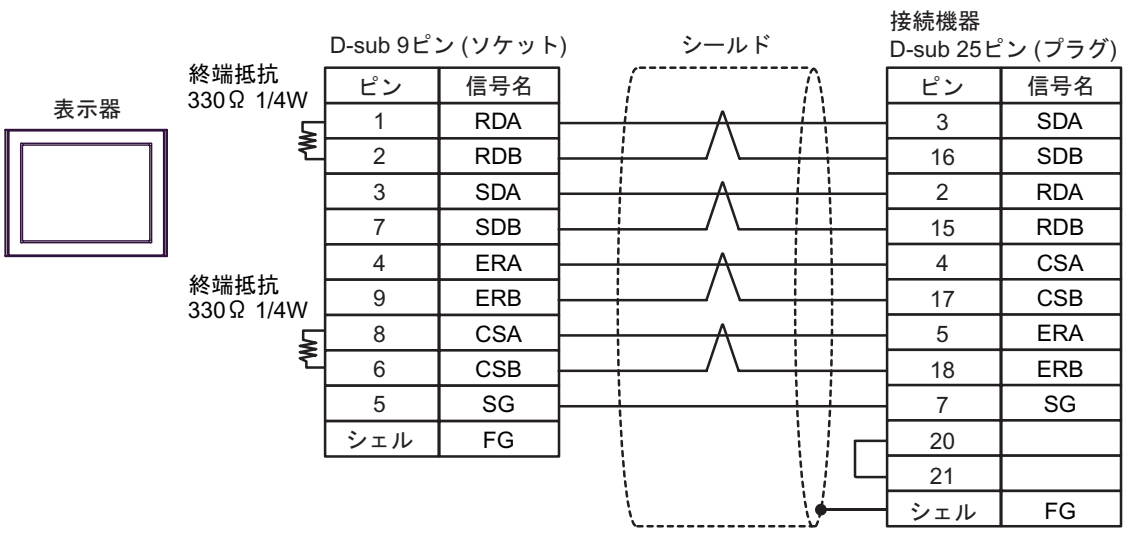
表示器（接続ポート）	ケーブル		備考
GP※1（COM1） AGP-3302B（COM2） IPC※2	A	（株）デジタル製 三菱 A 接続ケーブル CA3-CBLA-01（5m）	
	B	自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内にしてください。

※ 1 AGP-3302B 除く全 GP 機種

※ 2 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。
☞ ■ IPC の COM ポートについて （5 ページ）

A)（株）デジタル製 三菱 A 接続ケーブル（CA3-CBLA-01）を使用する場合

B) 自作ケーブルを使用する場合



結線図 3

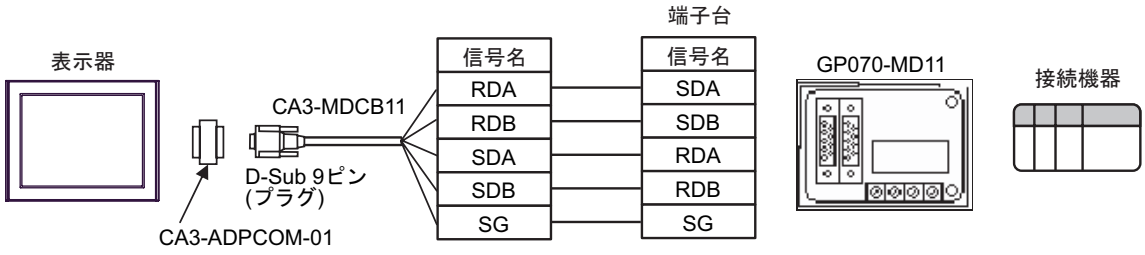
表示器（接続ポート）	ケーブル		備考
GP※1（COM1） AGP-3302B（COM2） IPC※2	A	（株）デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 ＋ （株）デジタル製 AGP 用 2 ポートアダプタケーブル CA3-MDCB11（5m） ＋ （株）デジタル製 2 ポートアダプタⅡ GP070-MD11	
	B	自作ケーブル ＋ （株）デジタル製 2 ポートアダプタⅡ GP070-MD11	ケーブル長は 600m 以内にしてください。
GP※3（COM2）	C	（株）デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 ＋ （株）デジタル製 AGP 用 2 ポートアダプタケーブル CA3-MDCB11（5m） ＋ （株）デジタル製 2 ポートアダプタⅡ GP070-MD11	
	D	（株）デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 ＋ 自作ケーブル ＋ （株）デジタル製 2 ポートアダプタⅡ GP070-MD11	ケーブル長は 600m 以内にしてください。

※1 AGP-3302B 除く全 GP 機種

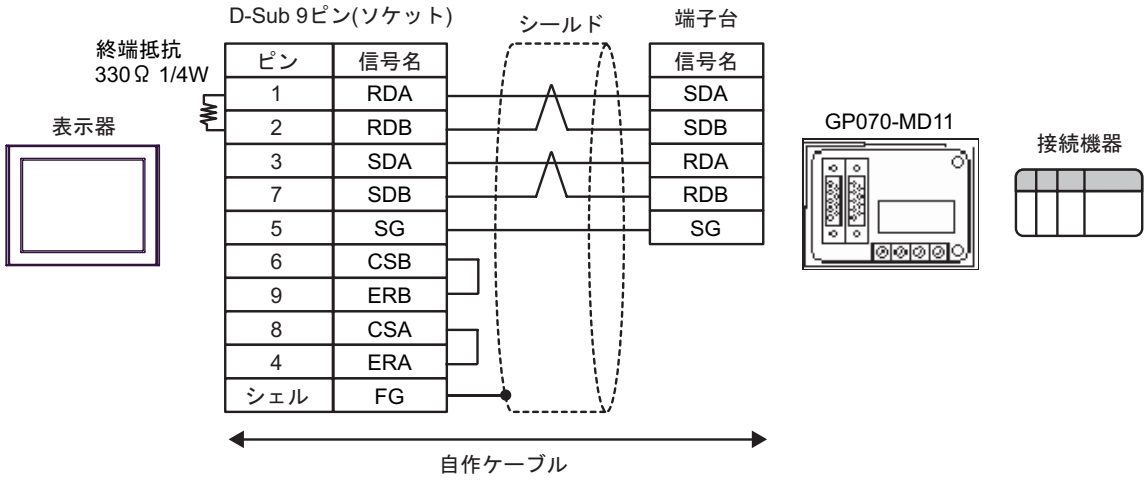
※2 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。
☞ ■ IPC の COM ポートについて （5 ページ）

※3 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP 機種

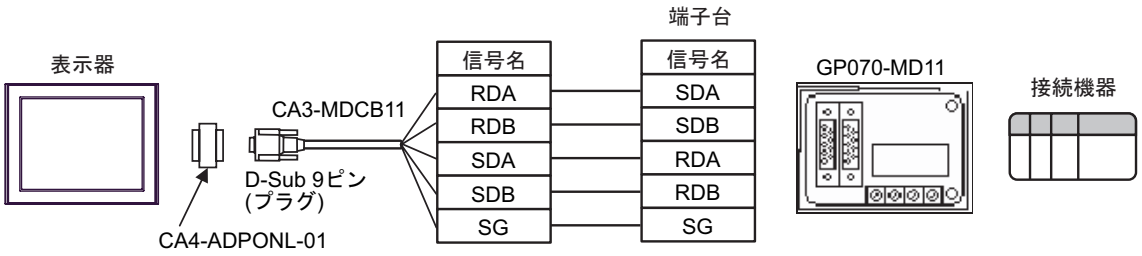
A （株）デジタル製 COM ポート変換アダプタ（CA3-ADPCOM-01）、（株）デジタル製 AGP 用 2 ポートアダプタケーブル（CA3-MDCB11）、および（株）デジタル製 2 ポートアダプタⅡ（GP070-MD11）を使用する場合



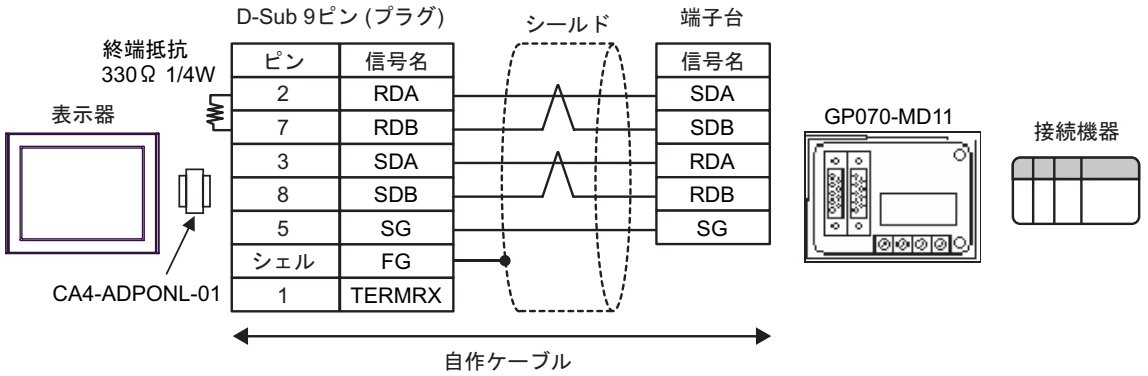
B　自作ケーブルおよび（株）デジタル製 2 ポートアダプタⅡ（GP070-MD11）を使用する場合



C （株）デジタル製 オンラインアダプタ（CA4-ADPONL-01）、（株）デジタル製 AGP 用 2 ポートアダプタケーブル（CA3-MDCB11）および（株）デジタル製 2 ポートアダプタⅡ（GP070-MD11）を使用する場合



D （株）デジタル製 オンラインアダプタ（CA4-ADPONL-01）、自作ケーブルおよび（株）デジタル製 2 ポートアダプタⅡ（GP070-MD11）を使用する場合

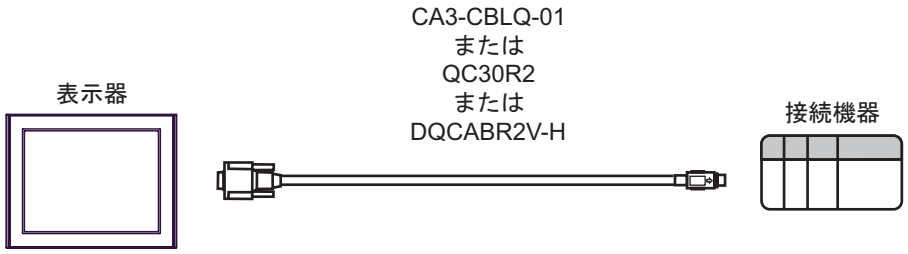


結線図 4

表示器 （接続ポート）	ケーブル	備考
GP（COM1） IPC※1 PC/AT	（株）デジタル製 三菱 Q 接続ケーブル CA3-CBLQ-01（5m） または 三菱電機（株）製 QC30R2（3m） または ダイヤトレンド（株）製 DQCABR2V-H（3m）※2	

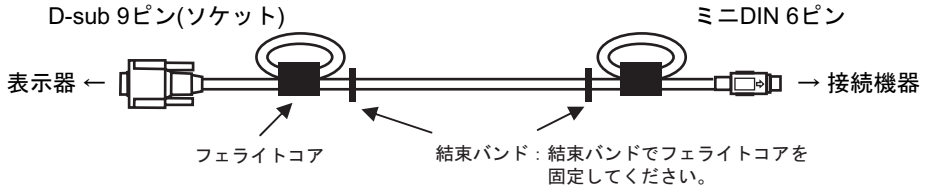
※1 RS-232C で通信できる COM ポートのみ使用できます。
■ IPC の COM ポートについて （5 ページ）

※2 ケーブル長を指定する場合は、（*m）で指定します。指定可能ケーブル長についてはダイヤトレンド（株）までお問い合わせください。



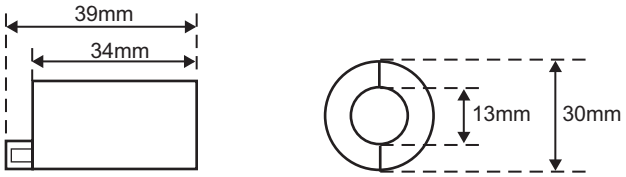
重 要

- **ご使用のケーブルには、耐ノイズ性向上のためにフェライトコアを装着されることをおすすめします。**
- **フェライトコアは、ケーブル両端のコネクタにより近い部分に取り付けてください。また、下図のようにケーブルをフェライトコアに巻き付ける（1 ターン）と、より耐ノイズ性が向上します。**



- **ケーブル長は 15m 以内にしてください**

< 推奨フェライトコア >
メーカー：星和電機　株式会社
型式　　：E04SR301334



- 同サイズのものであれば他社製フェライトコアでも使用できます。

6 使用可能デバイス

使用可能なデバイスアドレスの範囲を下表に示します。ただし、実際にサポートされているデバイスの範囲は接続機器によって異なりますので、ご使用の接続機器のマニュアルで確認してください。

6.1 MELSEC AnA シリーズ、Q シリーズ A モード

はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bits	備考
入力	X0000 - X1FFF	X0000 - X1FF0		***0
出力	Y0000 - Y1FFF	Y0000 - Y1FF0		***0
内部リレー	M0000 - M8191	M0000 - M8176		÷16
保持リレー	L0000 - L8191	L0000 - L8176		÷16
特殊リレー	M9000 - M9255	M9000 - M9240		÷16
アナンシェータ	F0000 - F2047	F0000 - F2032		÷16
リンクリレー	B0000 - B1FFF	------		
タイマ（接点）	TS0000 - TS2047	------		
タイマ（コイル）	TC0000 - TC2047	------	L/H	
カウンタ（接点）	CS0000 - CS1023	------		
カウンタ（コイル）	CC0000 - CC1023	------		
タイマ（現在値）	------	TN0000 - TN2047		
カウンタ（現在値）	------	CN0000 - CN1023		
データレジスタ	------	D0000 - D8191		Bit15
特殊レジスタ	------	D9000 - D9255		Bit15
リンクレジスタ	------	W0000 - W1FFF		BitF
ファイルレジスタ	------	R0000 - R8191		Bit15 ※1

※1 AnA、AnU、AnN、A3H でファイルレジスタを使用する場合は、下記のメモリカセット内のユーザーメモリエリアをご使用ください。

・A3NMCA-0 ・A3NMCA-2 ・A3NMCA-4 ・A3NMCA-8 ・A3NMCA-16

・A3NMCA-24 ・A3NMCA-40 ・A3NMCA-56 ・A4UMCA-8E

メモリカセット使用なしの場合にファイルレジスタを設定すると、通信時にエラーが発生します。ラダープログラムを ROM 化された場合は、ファイルレジスタが使用できない場合があります。ご注意ください。

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

  参照：GP-Pro EX **リファレンスマニュアル「付録** 1.4LS **エリア（ダイレクトアクセス方式専用）」**

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

  ☞**「表記のルール」**

6.2 MELSEC AnN シリーズ

はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bits	備考
入力	X0000 - X07FF	X0000 - X07F0	L/H	***0
出力	Y0000 - Y07FF	Y0000 - Y07F0		***0 ※1
内部リレー	M0000 - M2047	M0000 - M2032		÷16
保持リレー	L0000 - L2047	L0000 - L2032		÷16
特殊リレー	M9000 - M9255	M9000 - M9240		÷16 ※2
アナンシェータ	F000 - F255	F000 - F240		÷16
リンクリレー	B0000 - B03FF	------		
タイマ（接点）	TS000 - TS255	------		
タイマ（コイル）	TC000 - TC255	------		
カウンタ（接点）	CS000 - CS255	------		
カウンタ（コイル）	CC000 - CC255	------		
タイマ（現在値）	------	TN000 - TN255		
カウンタ（現在値）	------	CN000 - CN255		
データレジスタ	------	D0000 - D1023		Bit15
リンクレジスタ	------	W0000 - W03FF		BitF
ファイルレジスタ	------	R0000 - R8191		Bit15 ※3

※1 A2C 使用の場合、出力リレー Y01F0 ～ Y01FF（ワードは Y01F0）は接続機器側で使用のため設定できません。

※2 AnN と AJ71C24-S3 の組み合わせでは使用できません。

※3 AnA、AnU、AnN、A3H でファイルレジスタを使用する場合は、下記のメモリカセット内のユーザーメモリエリアをご使用ください。

・A3NMCA-0 ・A3NMCA-2 ・A3NMCA-4 ・A3NMCA-8 ・A3NMCA-16

・A3NMCA-24 ・A3NMCA-40 ・A3NMCA-56 ・A4UMCA-8E

メモリカセット使用なしの場合にファイルレジスタを設定すると、通信時にエラーが発生します。ラダープログラムを ROM 化された場合は、ファイルレジスタが使用できない場合があります。ご注意ください。

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

  参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用）」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

  ☞**「表記のルール」**

7 デバイスコードとアドレスコード

デバイスコードとアドレスコードは、データ表示器などのアドレスタイプで「デバイスタイプ&アドレス」を設定している場合に使用します。

7.1 MELSEC AnA シリーズ、Q シリーズ A モード

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入力	X	0080	ワードアドレス÷ 16 の値
出力	Y	0081	ワードアドレス÷ 16 の値
内部リレー	M	0082	ワードアドレス÷ 16 の値
保持リレー	L	0084	ワードアドレス÷ 16 の値
特殊リレー	M	0083	(ワードアドレス -9000) ÷ 16 の値
アナンシェータ	F	0085	ワードアドレス÷ 16 の値
タイマ（現在値）	TN	0060	ワードアドレス
カウンタ（現在値）	CN	0061	ワードアドレス
データレジスタ	D	0000	ワードアドレス
特殊レジスタ	D	0001	ワードアドレス -9000 の値
リンクレジスタ	W	0002	ワードアドレス
ファイルレジスタ	R	000F	ワードアドレス

7.2 MELSEC AnN シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入力	X	0080	ワードアドレス÷ 16 の値
出力	Y	0081	ワードアドレス÷ 16 の値
内部リレー	M	0082	ワードアドレス÷ 16 の値
保持リレー	L	0084	ワードアドレス÷ 16 の値
特殊リレー	M	0083	(ワードアドレス -9000) ÷ 16 の値
アナンシェータ	F	0085	ワードアドレス÷ 16 の値
タイマ（現在値）	TN	0060	ワードアドレス
カウンタ（現在値）	CN	0061	ワードアドレス
データレジスタ	D	0000	ワードアドレス
リンクレジスタ	W	0002	ワードアドレス
ファイルレジスタ	R	000F	ワードアドレス

8 エラーメッセージ

エラーメッセージは表示器の画面上に「番号 : 機器名 : エラーメッセージ（エラー発生箇所）」のように表示されます。それぞれの内容は以下のとおりです。

項目	内容
番号	エラー番号
機器名	エラーが発生した接続機器の名称。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。（初期値 [PLC1]）
エラーメッセージ	発生したエラーに関するメッセージを表示します。
エラー発生箇所	エラーが発生した接続機器の IP アドレスやデバイスアドレス、接続機器から受信したエラーコードを表示します。 **MEMO** • IP アドレスは「IP アドレス (10 進数):MAC アドレス (16 進数)」のように表示されます。 • デバイスアドレスは「アドレス：デバイスアドレス」のように表示されます。 • 受信エラーコードは「10 進数 [16 進数]」のように表示されます。

エラーメッセージの表示例

「RHAA035:PLC1: **書込み要求でエラー応答を受信しました（受信エラーコード** :2[02]**）」**

MEMO

- 受信したエラーコードの詳細は、接続機器のマニュアルを参照してください。
- ドライバ共通のエラーメッセージについては「保守 / トラブル解決ガイド」の「エラーが表示されたら（エラーコード一覧）」を参照してください。